

成高ナイン2回戦へ

20年ぶりの夏の甲子園



20年ぶりに響いた歓喜の校歌

先制のホームインに
ハイタッチ

写真提供/千葉日报社

成高応援団で埋めつくされた
1塁側アルプススタンド

阪神甲子園球場で8月7日、全国高校野球選手権大会が開幕しました。20年ぶりに夏の県大会を制した成田高校は、開会式当日の第2試合で強豪・智弁和歌山高校と対戦。5回裏に1番大木選手、2番岡選手の連続タイムリーで挙げた2点を、エースの中川投手が14奪三振の快投で守り切り、2対1で勝利しました。2回戦は、大会第7日に行われます。

助崎祇園祭

大長刀を先頭に

以前は数百人の担ぎ手が参加し、「裸祭り」といわれた下総地区須賀神社の「助崎祇園祭」が7月19日に開催されました。神社前の通りに屋台が連なり、多くの人でにぎわう中、午後6時、威勢のいい男たちに担がれた神輿が神社を出発。この神輿には装飾がなく、椎で作られていて、椎以外を用いると必ず担ぎ手に負傷者が出たといわれています。また、神輿の先導役が持つ先頭の大長刀は、天正18年(1590年)に助崎城が落城するとき、城主の妻が大長刀を持って尾羽根川を渡り、大室の円通寺に逃げ込み、尼になったという伝説に由来しています。祭りのクライマックスは、午後8時過ぎに、尾羽根川に入る「お浜降り」。担ぎ手たちが次々に川へ入っていく姿に、土手で見守る地元の人たちから歓声や拍手が送られていました。



出番を待つ大長刀



尾羽根川に入り神輿をもみ上げる

2010わくわくひろば合同キャンプ

夏休みにドキドキ体験



勢いよく飛び立つロケットにみんなビックリ

坂田ヶ池総合公園で7月18日・19日、「2010わくわくひろば合同キャンプ」が行われました。子どもたちに行動力や協調性を養ってもらおうと開催されたもので、小学生親子など162人が参加。初日の午後には、空気と水の圧力を利用したペットボトルロケット飛ばしが行われ、発射時の激しい水しぶきや音に参加者からは「うあ〜」「すげ〜」と声が上がっていました。

ペットボトルをつなぎ合わせたロケット

小学生のための認知症サポーター養成講座

高齢社会を支えるために

認知症を理解するための基本的な知識を小学生に身に付けてもらおうと7月27日、「小学生のための認知症サポーター養成講座」が保健福祉館で開催されました。「認知症という言葉聞いたこともない」という小学生も参加する中、介護施設の職員が、認知症の仕組みや認知症の人との接し方などを、寸劇や紙芝居などを交えて解説。講座終了後、「認知症サポーターの証」であるオレンジリングを渡された小学生たちは、「今日から着けてみよう」などと言葉を交わし、認知症に対する理解を深めたことへの自信をのぞかせていました。



熱心に耳を傾ける小学生

ラテンフィエスタ

ダンスで中南米と相互交流



ペルーの山岳地方のダンス「バリチャ」

成田市民と中南米出身の人たちの相互理解・交流を深めようと「ラテンフィエスタ」が7月25日、中央公民館で開催されました。会場には約300人の人たちが訪れ、それぞれの国のダンス・歌・演奏を披露しました。アトラクション終了後は軽食をつまみながらゲームを楽しみ、参加者同士で交流を深めていました。

カブトムシと遊ぼう

大きくて力持ち!



落ちないように頑張れ

カブトムシに触れ合うことで生き物の大切さを理解してもらおうと7月25日、子ども館で「カブトムシと遊ぼう」が行われました。参加したのは、小学生までの12人。カブトムシに関する〇×クイズや本でカブトムシの生態を学び、木登りをさせたり箱を運ばせたりしました。カブトムシが木登りするときに飛んでしまうというハプニングもあって、会場は終始大盛り上がり。参加者の一人は、「もらったカブトムシを大事に育てて、長生きさせたい」と話していました。